

沖縄県国家戦略特別区域会議（第1回）終了後会見要旨

日時：平成26年10月26日（日）15：59～16：09

場所：ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー2階 白鳳

（冒頭発言）

先ほど第1回沖縄県国家戦略特別区域会議が開催され、今終了したところでございます。沖縄県において、規制の特例措置を活用する事業の調整に時間を要しましたが、ようやく区域会議を立ち上げることができました。配付された資料にあるとおり、プレゼンをされ、審議をされ、今後これを実現に向けて進めていくということになっております。

ご質問等ありましたらどうぞ。

（質疑応答）

問： 琉球放送の水野と申します。よろしく申し上げます。

今改めて確認ですけれども、今日の会議で決まったこととか、確認されたことは何かございますか。

答： 今日第1回ということで、会議自体の運営については決まりました。こういう形で運営をしていくということは決まりました。

さらには、今日、お手元に資料があるかと思いますが、「都市再生・まちづくり分野」についてのご提案がありましたので、これについては今後手続きを進めていく。そして次回の区域会議で事業計画が承認され、総理の認定を受ければ、この特区の制度を活用できるということになります。

2ページ目の、「今後、追加に向けた検討すべき規制改革事項」ということは、今日こういう提案をしましたので、今後、特区のワーキンググループで規制官庁と議論して内容を詰めていきます。

それで、大体の実現の見通し、できる、できないを含めてできたときに、次回の区域会議でそれも含めて事業計画を議論し、承認できるものは承認していただくと、そういう流れになっています。

だから今日決まったのは、会議を立ち上げたということと、その会議の運営ルールは今

日決まりましたということでございます。

問： 具体的に次回の区域会議の日程とかはもう決まっているのでしょうか。

答： ちょっと法令の制約があって、新たに事業に参加をする人の受け付けを2週間することになっていきますので、それ以降ということになります。

できるだけ早く開催をしたいと思います。年内をめどに開催に向けて準備を進めていきたいと思っています。

問： 先ほどのお話の中の一部かぶるところもあるかと思うのですが、今後の会議の見通しと改めて意気込みというか、一言いただきたいと思います。

答： 仲井眞知事からも特に沖縄はやはり観光が重要だと、観光産業が重要だということです。最初のメニューは、観光客の外国の方も含めてですが、やっぱりまちを活用してイベントごととか看板を出せるということで有効だと思いますし、2枚目のいわゆる追加の規制緩和事項も、これは特に外国人観光客を呼び込む際に極めて有効なので、ぜひ強力に実現をお願いしますという話をいただきました。

政府といたしましても、私は地方創生も担当しておりますが、やはり観光というのはこれから極めて日本経済にとって重要な産業になってまいりますし、沖縄はさまざまなポテンシャルを持っている地域だと思いますので、まずは沖縄から、そういう外国のお客もいっぱい来ていただくような観光というものを伸ばしていくということをしっかりやりたいと思いますし、その特区制度でも実現をしていきたいというふうに思っております。

問： 沖縄タイムスの新垣と申します。よろしく申し上げます。先ほどの冒頭の挨拶のほうで「岩盤規制」というお言葉があったと思いますが、具体的にどういった規制のことをおっしゃっているのでしょうか。

答： 岩盤規制は、ずっとこの規制改革の議論は10年20年続いていると思います。この10年20年ずっと続いていて、なかなか変えることができなかつたものをざっくりと岩盤規制と言っているのですが、これは例えですけれども1次産業の分野、農業の分野であったり、あと社会保障の分野、さらには雇用規制の分野もしくは入管などは、非常にいろんな意見がある方もいらしたり、もしくはそのリスクというものを誰が分担するのかという問題もあり、なかなか規制緩和が進んでない分野でありますので、そういうところは岩盤規制とそのま

まいコールではありませんが、我々としては非常に注目をしている分野になります。

問： 日経の星と申します。今回の最初のほうに出てくる都市計画法、それから道路法の特例云々というところは、いわゆる国家戦略特区の中の共通のメニューになるわけです。

そこで沖縄が独自に求めていたビザだとか、そういうのはどっちかというその後回しになっているのかなというイメージを持ちます。

岩盤規制の打破という意味からも、ちょっとインパクトが弱いのかなというのが個人的には思うのですが、そのあたりはどういうふうに思っていますか。

答： まずはこの地区会議を開くということが大事でありまして、まさに今日はキックオフになると思います。

その上で岩盤規制はなかなかできないから岩盤規制というような名前がついているものですから、私はここで沖縄の区域会議を開催することができて、区域会議というのは国と地方自治体と事業者と一緒にその岩盤規制に穴をあけていくということなので、まさに沖縄県と一緒にこの岩盤規制に対して規制緩和の働きかけ、取り組みができるというのは、我々としても、担当副大臣としても強力な味方、または強力なツールを得たというふうに思っておりますので、今日いただいた追加規制メニューも、ワーキンググループを中心に強力で規制官庁と交渉し、できるだけ早い時期に、できるものをいつできるのかと、どういう手法でできるのかというのを含めて、区域会議に報告できるように鋭意取り組んでいきたいと思っております。

問： 琉球新報社の外間と申します。よろしく申し上げます。

先ほどのワーキンググループで具体的な作業をする予定だというお話だったかと思いますが、このメンバーと、具体的にどういったところの調整、形でやっていくのかというようなところを教えてくださいませんか。

答： ワーキンググループは大阪大学の八田さんが中心にやっております。あと原英史さんという民間の方も入っています。

そのワーキンググループと規制官庁と議論をして、その上で政務に上がってきて、これは政務同士で調整をしていくということになります。

やっぱり精緻な法律議論が必要なものですから、政治家同士でやる、やらないという前に、では緩和するに当たってそのリスクは誰が分担をするのか、そのリスクに対してどうセーフティーネットを張るのかとか、そういう話にもなりますので、そういった部分ではワーキンググループで進めていただき、私も一緒になってやっていきます。

大体話が煮詰まってきたところで、私が先方の副大臣なり、大臣なりとお話しをしてまとめていくということになろうかと思えます。

問： NHKの小林と申します。今日のご挨拶の中で、国際的なイノベーションを創生していくというお話があったかと思えますけど、それは観光とはまた別の話でしょうか。

答： そうです。沖縄科学技術大学院大学もございますので、そこでは先端の研究がなされていると承知をしております。

ですから、これは地方の創生観点でもそうなのですが、観光という1つの柱と、いわゆる最先端の科学技術テクノロジーを使って、それで経済をブレイクスルーしていくというのと両方あると思えます。

沖縄は観光資源のみならず、そういう最先端の研究機関があるものですから、そういうものを活用して新たなイノベーションの種をつくっていただいているわけなので、そこでまた起業家が出てきて新たなビジネスが生まれ、大きなイノベーションが生まれる可能性がありますので、それはそれで併せて沖縄の特区として扱っていかうということでございます。

問： 追加です。今日の会議でもそれに関する話が出たということですか。

答： 今日はおつばら知事からは観光の規制緩和、知事からはここの観光メニュー全部に対して、6件全部に対してこれをよろしく願いますという話はございました。その上で、やっぱり観光は大事なのでしっかり頼みますよということを言われたということです。